聖徳太子御憲法

ワ 3
6494

73
6494
門 73
號 6494
卷

敬礼救世観世音傳燈東方衆散王
從於西方來誕生閻浮妙法度衆生

深祕御繪所 神田宗庭拜畫

昭和九年七月四日購求

今我法華聖德太子者即是南嶽慧思大師後身
也慶戶託生汲引四國請持經於大唐興妙法於日
域木鐸振天台相承其法味日本玄孫興福寺沙門
最澄雖愚頗私我師教不任渴仰心謹奉一首
海内求緣力歸心聖德宮我今弘妙法師教令無窮第
兩樹隨春別三弁應節同願惟國教使加護助興隆

達磨大師

伊こるぐのよる留ゑ路川のおとそこの
わ、のおほぎみよ名和礼ゑめ

聖德皇太子御選十七條憲法

一以和爲貴无忤爲宗人皆有黨亦少達者
是以或不順君父乍違于鄰里然上和下
睦諧於論事則事理自通何事不成
一篤敬三寶三寶者佛法僧也則四生之終
歸萬國之極宗何世何人非貴是法人鮮
尤惡能教從之其不歸三寶何以直枉

一兼詔必謹則君天之則臣地之天覆地載
四時順行萬氣得通地欲覆天則致壞耳
是以君言臣兼上行下效故兼詔必愼不
謹自敗

一羣卿百僚以禮爲本其治民之本要在于
禮上不禮下不齊下无禮以必有罪是以
君臣有禮位次不亂百姓有禮國家自治
一絶餐棄欲明辨訴訟其百姓之訟一日千
事一日尚尓況累歲須治訟者得利爲常
見賄聽讞便有財之訟如石投水乏者訴
似水投石是以貧民則不知所由臣道亦
於焉闕

懲惡勸善古之良典是以无匿人善見惡
必匡其諂詐者則爲覆國家之利器爲絶
人民之鋒劒亦佞媚者對上則好說下過
逢下則誹謗上失其如此人皆無忠於君

無仁於民是大亂之本也

一 人各有任掌宜不濫其賢哲任官頌音則起姦者在官禍亂則繁世少生知克念作聖事无大小得人必治時无急緩遇賢自寬因此國家永久社稷无危故古聖王爲官以求人爲人不求官

一 群卿百僚早朝晏退王事靡監終日難盡是以遲朝不逮于急早退必事不盡

一 信是義之本每事有信其善惡成敗要在于信群臣共信何事不成群臣無信萬事悉敗

一 絶忿棄瞋不怒人違人皆有心心各有執彼是則我非我是則彼非我必非聖彼必非愚共是凡夫耳是非之理詎可定相共賢愚如環無端是以彼人雖瞋還恐我失我獨雖得從衆同擧

一 明察功過賞罰必當日者賞不在功罰不在罰執事群卿宜明賞罰

一 國司國造勿斂百姓國靡二君民无兩主率土兆民以王爲主所任官司皆是王臣何敢與公賦斂百姓

一 諸任官者同知職掌或病或使有闕於事然得知之日和如曾識其以非與聞勿妨公務

一 群臣百僚無有嫉妬我既嫉人人亦妬我嫉妬之患不知其極所以勝智於已則不悅優才於已則嫉妬是以五百歲之後乃今遇賢千載以難待一聖其不得賢聖何以治國

一 背私向公是臣之道矣凡人有私必有恨有恨必非固非則以私妨公恨起則違制害法故初章云上下和睦其亦是情欤

一使民以時古之良典故冬月有閒以可使
民從春至秋農桑之節不可使民其不農
何食不桑何服

一大事不可獨斷必與衆宜論小事是輕不
可必衆唯逮論大事若疑有失故與衆相
辨辭則得理矣

甲子歲四月朔

廐戸

聖徳皇太子御撰憲法奥書

上宮皇太子のつくりさだめたまひし十七ヶ條の憲法我志るせる
書も世にある故これを見てさるよしのみぶれたりと抔いふ有なむ
抔いふ有るさまよりてさきつとし難波の四天王寺なる一音院叢順
僧都の東の比叡よきまゐりきほ筆を賜ひて今は
世に皇太子のまさしきほ筆と賜ひつとふつまびらかなるこそ
ほ形見なのりつることそこそりに
志ぬびたまへぬとくこのりてれ後
しされてまり上ぬきとよみとまつて
そへたんぺり紀貫之朝臣の四天王寺
水ぬきれてなとふなのなるともそれぬ志のぶ人やなからむ

とのきつけしるもこのごとくいまこの大倭世成志まきしのぷひとのたにそそんことなるひんのつらん人々軒端よおふる草の名もむしなしのぷそてもなれぷしとそうたへものせりきるよのことくもこの憲法成りせまるよのげつらひいひやぷるものなりこそうくなるくより皇太子のほん成よりもひとるこそみてるハぷるぷのゆえなり　さきつとの澄師の起信論の講義成採水こもあせをりそのぷそてぷのきよ十七條憲法　皇太子真筆宝蓄奉藏於四天王寺余乞得一写本於一音院康頌僧都而観之諸本所載其誤非一二也有一感者妄議憲法曰十七條中無崇神敬祭條何也儒佛二道則漢竺之道而非我国之道也以非我之道而教我之民是害而已矣余太息曰崇神敬祭則我国常

典群卿百僚已所善知是故無之佛佛之教有利於国而所未知故以為教憲法御制装良有以矣感者不知因縁則十悪之天理仁義則人倫之常經且不思　太子祭神祇録国記明在書紀妄謂蔑崇神敬祭の條なき成いぷそこの皇國の常典なしてまつく大御手ともまさぷなるぷのゆえの群卿百僚成教誡さくまふ條々の中るいぷべきことそもろもろぷすく憲法成ものしたまふ天倭世よハ上も下も常典の神事成ゆえるこのせよ知ることをりよのらざるのぷのゆえこ成こと成さらよのげたまハぷることそ今成ゐて千歳の後なすべなりぬるまきとき成なるこのふ知ぷなぜそぷすく皇太子れのぷの天神の道成もく

却ねとしたまふほんの故志らせ
書ぬれなる皇太子ぬ法吉葉ぅ夫吾国の解除ハもろ〳〵の災雑
故のそき万ぬ病故なおし先故ぬ
物としてきくのへさるハなしゆゑ不老の妙術よして不死の良薬
なりゆゑ言語の叡慮諸法の心地万法万行の源是なり法の
中ハ是故秘して如来の心源最第一とつつふるものなりと
つる故をろのみときましのしまま清原國賢朝臣の日本書紀
の奥書ぅ按　應神天皇以還至　繼體天皇御宇異域典經多
以雖来朝不解其義徒経三百有餘歳矣　推古天皇御宇
聖徳太子察三才之源達三國之起故始以漢字附神代
之文字傍於是吾邦之人浸得識量典經之旨非至聖誰敢

成此繕我益神道者為萬法之根抵儒教者為枝葉佛教者為
花實彼二教者皆是神道之末葉已雖以枝葉顯其本原然
則異曲同工者歟等とつる故ぬ常昌の鳴呼吾神明設教也正直為道仁愛為本是即釈氏
所謂平等慈悲者也名異而義同也然愚俗徒以人我競峻
門牆惡異已者嗟我逝矣涂炭不可久處とおもひて　皇矣神神
の御殿の内へまゐのぼりてなのくのれまる神業ぬて
きこゝろをも拙ふへきなりまま皇太子のつとめて儒佛二
教故ひろめ給ぬまゝつるほんの故のこゝろもおしたうまし
よこそまゝく未然のこと故ちの為故ちの
ほんもて大唐國の為故ちのく拙もひとめくそうまし

つる神業なむどいふべきものにあらず。いふべきものにあらず。日月のごとくにて疑ひなき。未の世までうつりてのちみよにらそふことおぼえる。しかるに人なほまどひてときとけざるは、南都なる法隆寺の大塔の中なる須弥山の形状つくり日月横転のさまなどもしかるべきものにあらず。千歳の後に西洋の邪教まねてこの地球等の妄説なりとひろめて国人を古事記日本紀等より古代の実事なる妄説の如くよおもひおもはしむるは、のちの国の教法なるべきものにあらず。国人たるものの奴僕の如くなほまどひたるごとくにて大禍事なほりきらむことを

りきたるまでにあらざるべからざることなり。この佛家よりの立世阿毘曇論の中に有諸外道作是説是大地恒去不息是言應答此事不然若實爾者如向上擲塵應不至地又諸外道作如是説日月星辰恒住不移大地自轉疑是天迴是言應答此事不然若如是者射箭不至遠又諸外道作如是説大地恒浮隨風來去應如是答此事不然若實爾者地恒併動若不爾者地作何相地住不動等とそやくもときおのれが邪説ますます地球等の如き妄見の諸説ますますいでくるものなりと。佛説を信奉せる国人の為にこの中より日月の縦横二転まで大地の動転不動転等の論説いでたる是いでたり非なりとぶその真偽邪正のこと

ごう人となりよくつとうるぺきなり
らけきは書葉(ヒコバ)に莫(ナ)く仏よりよろづのことの
よ是(コレ)ぞのほ国の一大事ぞとふるくおしこゝろ志ぬひて
このことを疑ことの莫(ナ)くものしこゝき
天照皇大御神よろひのこと有(アリ)ぬそはおのま沙門なれ
どまさく神国となりおへる人草なるこの国の
ことをうく我おもひうつ永久のほ為我志ぬぞするこゝとたゞ
の一日もなしさうる西洋の邪説まねきこうて日と月と
ひろこゑパ佛佛二教のことをとりの世よこりをしそこるうハ
おきてこの神書(フミ)ぞいと正(タヾ)しきほつさへぺきそのこゝ
ろうちもさくんよいぺこのりこまろしむものおあくなり

もてゆのむまえこのりぺしよりて仏ろうなる事たしほぺ
皇大御神のほふ仰我うぺりをりてさる仏ぞ人らの仏こをる仏ひおすべ仏ときに
をるに一是(コレ)ぞ根の國よいふおもの
の邪教(アダ)ましこるをもぺくひたまをるぺゆゑこそ仏あま
ぬくときやとぺきなりぬ(き神言(カンゴト)仏えをしめたまへとくひの
ミくのるはしくもくをゆぺもたぺこのことをのこ真(マ)ことの
て古事記仏(フルコトブミ)こゝぺをるぺきをりしよる夜くくも
こゝとのも　皇大御神のほふよりて天日そこれ横轉(ヨコマ)大地そこれ不
轉(カヘラ)なる神言(カンゴト)の明證(アカシ)仏見出(ミイデ)もんぺりてこゝの常夜(トコヨ)のとみるほけ
つゝまつるこゝちやらまをくよろこぺしさのほぺまり

天日是(ヲ)横轉(カヘラ)以(テ)神明(カミ)語知(サト)若疑(ウタガ)同佛説(ホトケ)古事記應披(ヒラク)

書ぞ、まづ此の記紀等の神書ぞを、とものいよ〳〵尊信敬畏しさらよく記紀等の神書ぞをもて、まことたゞ日輪のひかりをあふぎ、たまふさまをよくなほらひて、皇國外國ともに、さかしらの國家治亂の本末始終のことごとをも、もて來代の爲よきそのことをとり、明鏡をとりて、おのもの面相改むるまことの顯露二教の中なる、神書よりてこそ、おのもそのまことをば、佛説の虛妄ならざる明證とする、ぺきものぞ、その神書ぞ、真實なるそのほうとなる、ぺきものぞ、けりとひくこゝろぞ、おのもさそれの見出づる大地の動轉

ぜざるものとふなりそ記の中ぞ於是天ツ神諸命以詔伊邪那岐命伊邪那美命二柱神修理固成是多陀用幣流之國賜天沼矛而言依賜也とある神言ぞ、なりそは天と地を立てその中なる大地の上なる大海原の中ぞ浮脂の如くなるぺたゞよひくゝりしものをもら神業ぞもてつくりなせし激能碁呂嶋となりてるぎめぐることなきなりさればぞその嶋のもとなる大地の動轉をぺきことをもてのぞつらふまでぞ、ありてぞでよきそのもぱ大地の動轉をもてよりとく晝夜のさだまりといふ西洋の諸説ぱたゞ現見の事實をたぶふにしてへもぱ異論なくくさな邪妄といふぺし同記の沼河日賣命の詔歌ぞ阿遠夜麻邇比賀迦久良婆奴婆多麻能用波伊傳那牟阿

佐比能恵美佐迦延岐豆とつるまで大空の日輪ハ横旋するもの
大地の青山ハたてるもよそよそよもくるぐるめぐるものなるべし
よくきゝらもしたうまことのハ歌よてきことふ言のんよくことう東南
西北といつる言の上ゟ日ハよそよめぐりてこのまゝらそるものとふこと
よくきこてまこうそゟ東ハ日むのぼし日ぬ〻ゟ日のしいぬまもせよ
南ハ日さもち西ゟ日いぬし北ゟ日きこるまそもでこのまいる
し日ぬまこゝさこにくいぬ〻ゟ言なりまく北とハ日の
氣のたゝそ〻ゆることなきこのことふ言まそけぬれさくなしな
いつるとおゝし言のふなり法國の神言ハ梵音の多含なるものよ
ひとしきものおゝのれハひとまそ言ひり法國の言
の葉の大もと述きらまのそりせぬ。五十並の聲のことゝき述よくきこと

る人ままなびまく文殊問経等ことみる字母の形音義述ちのゝふ法
国人の言と形と心ととりてこまうくこのみぬべよそ彼経ニ示時
文殊師利白仏言世尊一切諸字母云何一切諸法入於此及陀羅
尼字仏告文殊師利一切諸法入於字母及陀羅尼字文殊師利如
阿字時是無常聲迦字是遠離我聲娑字是諸根廣博声
他字是世間災害声婆字是多種逼迫声麼字是損減世間多有
情声哆字是直轉相續有情声那字是斷深遊戲声ハ字是生
法相声迦字是三有深相声ヲ字是成儀勝声多字
是取声ヌ字是起所求声字是無我所声娑字是沉没声ヤ字
是入業異熟声仍字是一切法等虚空声ガ字是甚深法声ヴ字是
摧碯密無明闇冥声ヂ字是五趣清浄声ヤ字是四聖諦声ヰ字是

不覆欲声ざ字は是れ超老死声ざ字は是れ制伏悪語言声ざ字は是れ
佗魔声た字は是れ断結声ぬ字は是れ出置苔声だ字は是れ出摂伏魔
諍声な字は是れ滅識境界声ぬ字は是れ除諸煩悩声た字は是れ真
如無間断声な字は是れ勢力進無畏声だ字は是れ調伏律儀寂静
安穏声だ字は是れ七聖財声な字は是れ偏知名色声ば字は是れ勝義声
ば字は是れ得果作證声ば字は是れ解脱繋縛声ば字は是れ出生三有声
ば字は是れ息憍慢声ば字は是れ楽不楽勝義声ば字は是れ
是れ断愛支声ば字は是れ最上衆声ざ字は是れ
制伏六處得六神通智声ざ字は是れ現證一切智声ば字は是れ害煩悩
離欲声ば字は是れ一切文字究竟無言説声ば文殊師利此れ謂字母
義一切諸字入於此中となりまく金剛頂経釋字母品に五字門一切法本不

生故ぬ字門一切法寂静故ぬ字門一切法根不可得故ぬは災禍ぬは譬
喩ぬは損減ぬは神通ぬは類例ぬは深ぬは沈没ぬは求ぬは自在ぬは濕
流ぬは化生ぬは辺際ぬは遠離ぬは離作業ぬは等虚空ぬは行ぬは二
合ぬは支分ぬは離遷変ぬは影像ぬは生ぬは戦敵ぬは智ぬは慢
ぬは長養ぬは怨對ぬは執持ぬは静ぬは如如ぬは住處ぬは法
施ぬは法界ぬは名ぬは第一義諦ぬは不堅如聚沫ぬは縛
ぬは有ぬは吾我ぬは衆ぬは離諸塵染ぬは相ぬは語言道
断ぬは本性寂ぬは性鈍ぬは諦ぬは因ぬ字門一切法盡不可得
故と云るが如きあ言葉のもと我も歌にて侍る昼のごとくなりぬることはまさく須弥山の半腹より日輪の横旋をるよ
よりと説る経論の説の虚妄ならぬこともよみ給ふらんとはいふまで

いまは歌ハまのほう日の青山三つまもさやよみたまひし
なるべし名ぞこのほか歌枕もて日の一夜のかぞまして尽ぬハなるゆゑぞ
よふまくおしみぞることをハ北の方三つてそれをもいろ大山のごとく
ことをりいとくのさらけのごとくなりまし記の中に
次生筑紫嶋亦身一而有面面毎面有名故筑紫国謂白日別豊國謂豊
日別肥国謂建日向日豊久士比泥別孝泉曰向日是熊曾國謂建日
別一書曰白日別とふハ女ろへる名三つきてかもまる白日別
国なれバまのおふせたる名にて豊日別とふハ健くきさりなる日のごとき国ゆ
ゑの名つけるまて建日別とふハ健くきさりなる日のごとき国
なるバまのりふかり建日豊久士比泥別といつるハうみの三の
国名なまでもまる名よて女ろへる日のほ影のめでたきを

さまよりもとくのびく三の国名なつけたるその根ろけ
もとつ国とふんの國名かりこそ　天通岐志国迩岐志天津
日高日子番能迩迩藝命日向の高千穂の久士布流多気ニ
ますまく此地者向韓国真来通笠沙御前而朝日
之直刺國夕日照国也とのりたまひく大宮所とせさも
たまへる神言よりてかもかくしこくも　天孫の奇
振嶽まく天津日の御影なる神をかりまして見ますく
四の国名なる名つけますつることふことさへよの地もひさらうるなり
まことなられ天日ハ横轉なるものまして今ハ世まで
のれたるもかる天のさこの名ことと世人のたぶつる神代のつゞき
つぶさにうまたもちまつりきけりこそ　天孫の日の

清鑒哉をうつまをしものとやと申ぬ。さるにより志のしるをはとまれかくまれくてぶるだけのかりてこれさるかこのかぜ祓をうつるときは天津日ハよこる中空(なかぞら)祓めぶるものうたてる大地の主つる祓めぶるものうまくハ大地ぶめぶくて日ハめぶらぬものとハいふことハもちろやくまさるものよてこれいたゆる空論よりうまれる現證とハいふものなりもちろやる神代より今ハ　大御代まぶく一百七十九万四千九百九十餘歳をもそもそもせぶくもたるもちろやるのうまし西洋の邪説我破有しとの天神の神業(みわざ)ハいとくぶ天下よりうまれる神寶(かんだから)とあがめる天のさかほこぞとおもひをまをそこのけまの

もうこきし三種の神宝よつぎて崇神の御巻と大和国の神社注進状とよをとくる日本大國魂大神の御霊代(みたましろ)なるよし廣矛とともよみやまひいそのかみふるれこもしらなる布都の佩太刀とひくたるそみをもぶき神宝ぞとも申ぶくこれ志つれをぶまきくうつてこのしましつるひとくさの神業我もてもとの大御國を久方の天のいと正(ぶ)くいとたるそきは　皇大御神の通我もて海外なる万国の民草のふのきまぶくひまをしていとめぶくこれ神明佛陀の境域(みさかひ)よいさなひたまふぶまし志るこれうこくも天地の諸神たちも神ぞとのうまをしものうもた

まる法國體なりとふいとくくしき神業のふるきことゆりよりのおもひたらまゝそもそもの神もろしあへぬなることゝなめらしをんべるなりまことゝもあるまじ

二柱の大神の生名坂伊邪那岐命伊邪那美命とあらぬへるもるべきをもりよこそいでもろ人よ二柱の大神よ天の御柱坂めぐりはらこをまつるくしき神業よまさゝ坂ふのくうこみまさ天別豊姫大神の神託よ為人よ天ようなるをるひさ坂つゝめ地ようなるひぞ坂つゝをくくしき高き坂うやまひ下坂をもひき直きんをそぐ〳〵法おやや坂まつもおのぞつゝら神のいき坂なをむとる坂のこゝは國體のいともきことゆり坂つゆよをぬひをり法國のなれるそゝより立ひこゐる

君と臣と民とのの大道なのゝゝくくまゆり法國ぞのらればことをりよまゝのをくなるよひぞ坂もこをな国家ぬ法爲ることなしねのしもくよのゝらぞきつれ男の田よをくよねつるもあき人の市よゆりてものひなくぞもこをなこれめでくくしき神祭ことの神業よそまゝこゝまし坂のまし坂おもひよび生の子ぬ八十つきまをくおもひひらぶこともなくたちさらにゆき親も子も孫もこをなつぎ〳〵よいをくたちぬ諸神たちぬ法域よまぬめぐりいりて天地とともにもこのきうなきたのしこ坂るくべき神業のつとゝをなるぞうふときは國ぞらぬことゆりよのまし坂おろのなれぞのるたしこをめぞそりこのつこれぞ

設ニ神理ヲ一以テ贊ニ俗ヲ一敷ニ英風ヲ一以テ弘ニ國ヲ一たまふ今ぬ　大御政事

をふのく尊崇しまつり第一ニハ神佛佛三道以テ起ル皇國之寶信ヲ第二ニハ通シ水ヲ開キ土地ヲ以テ豊天下之百姓ヲ第三ニハ立法ノ正シ交易ヲ以テ止メ國民之走利ニ第四ニハ嚴命ノ武臣僧徒ニ守リ國家ヲ防キ邪教ヲ第五ニハ普利ノ自他國民ヲ鎮作シ廣大神事ヲ一とふ五のねぎごとを我國家の法度ゝ定めおかせり

寄語皇朝士　仰天鳥影高洋炮何足怖　神武日本刀

こと國の人々もなさゞいなりぬべしとの玉きしまの日本ゝゝ

けゞし源氏物語ゝも才ゞもとゝくやまとだましひの世ゝもろもろらるゝゝもつよゝをべらめなどゝゝくむのしよりやまと魂やまとゝふことそは國人のこゝろそよめることなれど大日本國なのくものしたまひしそ

そもくなよ為ぞとゝこと我真ゝゝ志ぬぴて天神地祇のいとも
たゝときほゝ我よくおもひ志りぬる我こそ日本心我えそる人
ともいふべくれいのゝオありともそれをりよりてゝこゝの
てほ國体のことゝりをも志らでこ我ゆるのそゝおもへるものハ
世もゝ米國家のまゐゝなゝぬおそ人こそそゝ孔子ゞ語ニ如有周公之才之美使驕且吝其餘不足觀也已とゝる我おもひの憲法の中ニ事无ゝ大小得人必治時无急緩遇賢自寛ゝあるぞよみをるよつけても稲羽の素菟のたゞひなるものハ世ニ栄ゆるぺくれど八意思兼常世思金御神の如き人ハありこゝくまでこえこゝるぺし神代ゝもこゝぴ神をゝり　まてこそ盛筥のほ神をハえたまひつきされハ却やけよつゝまつりはゝくしき

世のうつり変なるべきまことのくるつはものとなるべき故とう出さん
よハこそくるべしこのしされどこのしこそもひとうふそう世の中故ま
つりごとうちるべきならねバすみそめたる志もよまたをけられ志もいのみす
なびきそこひろきよゆつらふらんせバき家のなるしとまべ
き人ひとり故おもひめぐらしもそるたらバでのしこるべき大事
どもなんのくく業こるる人そ大たく志なるもよらしこくろち
をバさらよもいそぬいそくもちけおまきおぶ
だよなくバたたひとへるものまじやこのまつこのあるんの故も
むきならむよるべをそつひのたのこどころよハおもひおく
べうりるると紫式部のいる故よくいそれうとおもつけても
東照源君のまことのくる人そ大小上下とともの道理故まるべし

其職まもる根元故できまへくこそ官職よハ居るべれたとへバ頼朝
の諸国惣追捕使よ補せられし故自己の楽の様よ心得られしと
ひろう其義まてハかし王道ひまるまて人いつそうおあくやくも
もて行ハ治中騒動も武士故もてこられ故鎮め民のくるしみ故除の
きんの為よ置ましたる職なりこる志るる故自身の楽と悦んでく
覚悟よたのこところやなりくん子孫も久しくらぶ志のれるも
頼朝武家よまそそもそ関東よ居なのら戦国の難故もそ
くひしハ治将といふものなりとあるでこそまるまよ武田信
玄入道の今世乱て天下一国も豊なのこそ是よよりて天下ハ家々
弓矢の切つゆ故なるよ武徳よこのをえぬるハ希なり信長の
弓矢弱ニて大妓なり是武功なりとも果して冥加ならし

謙信の弓矢そ強太にして和なし上杉よハ江刻六角義秀是
まて強勇甚しくして慈悲なし義秀の旗頭淺井長政
の弓矢ハ士たる道よくこのなへても乱世の時故志ら遠州
の松平藏人家康弓矢をそう故甚相てう家康
命なのくハのならぬ天下の加助故えて大きよ弓馬の名ハ
らそれんとてつらへるそよくいひてまさ
佛家よて国土苦樂諸佛変現ハ是衆生業感といふ
ことそう故ふのくまゝあひそく地もそなひの唐国ハまてくまれ阿
弥陀佛の本願力故もそくものせし極樂浄土の如くもそ
ら天神地祇のくまき神業故もてものせいともめでたき
唐国なりよりて衆生の共業力もそなもる外国とそ

もとより国体のことそう大なたひつこゝなもく唐國よハ
皇大御神の御神孫と天神と國神との神孫と青人草と外国人
との子孫その血筋むのよりよる立てされと君と臣と民とのの
大道ニまてへるものなしゆゑ唐國なとの如くことひ〳〵く
言のひて君臣の義理故せんとてハ却のつらう
うそみる君臣の大道故よくまもり家々されひ故よくつと先神
代のときむのよう今ハ大御世よりさらせたまふまであるハ
臣まて八民よりおそこのことくも天位故けのしなられと
すりそゑよもひひ却もひ故却そもものひとうもなきなり
これをそもち天神と地祇との御子孫神業故もくひとふる
安國とをそさそんをへまして天孫故あるをもりし唐国の

いともかしこきところよりおこりてよろづの法國ともいひまた外國より君子國とも礼儀の国ともおもはるるところなりまことに
皇大御神の宝祚之隆當與天壤無窮者矣とほうことのらせたまへる天津日繼のいともたふとき神業の大御本
なることこのことなり。皇大御神の物實因我物所成故自吾子也と
詔別ましまし天孫のことさらよさくやびめ賣命にいつかうまつりませる是非我子等とのらせたまふべし神業の大ほんもとまた
ここにたまふなるべしまたこの國の神業ぞ佛家よりまねびそへて諸佛救世者住於大神通為悦衆生故現無量神力と說る妙經の意とも一切衆生悉有仏性如來常住無有変易と說る
涅槃経の意なる扶律談常未代贖命の大法門ともまねびくさ

ますま菩提心為因大悲為根本方便為究竟と說る大日經の意なる
神変不可思議の神業ともまねびつる山家よ相承するところなり
山王一實の神道なる真俗不二の神業ともたふべきまをすべき
なり日枝大神のたふときことはさら也ふかく元徳
二年三月日吉社並敵山行幸記ぞよまた神業と妖術
とのわかちなきものそこる天台の神通妙の
解釈なんよの日吉大神とそおはす。大神まて
二荒山とも我たまひまたまひしより二千八十年ゐ春秋我へ
まもりよし勝道上人へ大神のまのあたりつげさもなまひし
なりこの大神の御霊出雲とも大和とも比敵山とも日光山とも
志づまりおはしますことくくしくとも神業よこそ

なるこそ此ぞまことの法の志ぞねぶもうくしけなきさまなるこそ此ぞる
と両行法師のよめる我御もひまさる山家大師の
末の世いのりもまもるそのことの志るしなきこそ志るしなりけれ
とさとし給のみ一我志のみつけくもきんみうくして皇国の實信の
ふのくおこらぬそこのなしけこそしこそうして神業そくてきことなりこ我
よくおもひとさえさるおめるたもく神業我御もひ志あひさとら
千即空假中のことろう我もろ我志なそのこのやうに天の八重雲のそるこのやうに
ハ志なそのこのやうに天の八重雲のそるこのやうに
ミよつきて尊信の真心おこりぬべし源信の真如観覚起の已心中記等我なよ
面壁為何思山家祭々翁三禅天上樂實在一心中
佛すも神よも人もそなるもの我なそくん我なそこもつらむ

古事記中巻ニ我御世之事紙許曽神習又宇都志岐青人草習乎不償其物トアルヲ以テモ唐国人ノ聖賢ノ道ヲ習ヒ學ビテ聖賢ト作ルカ如ク御国人ハ正直ナル我神ノ道ヲ執コソ神習ヒテ神ノ御域ニ至ランコトヲコヒノムベキコトヲシルベシ

いそ。此国人よ天神のこころき命もくく人神我のそなひたまふと神な
らぬ凡人のつそく我もて人皇我まつろへるとのたのひ我もて神の
此国と凡人の国とのさこち我志りてよの　天孫ハまくく人神我
まくくもたまふ志為よのこくも神なそら人とつらも在て
おそくまく大御身なりとふことを我よくもろ神国と外国
とハ志のそらも人そら同而不同不同而同常同常別古今法条
なるふのきことろりてよふことを我まつりてよの我もひまろて
あれ摘正成朝臣の正行と君とてハ無罪我憎ミ臣とて
ハ是非ともよ君我恨る心起らハ一念ろ　太神宮我念そ。
て御名我誦せよと桜井の陣中まて遺命せらましたる
そ如きまことの日本魂我まきそくらふそくく此当て

ひとつの國家のほろびなむとするべきなりもしこの眞
んなき人ならば傍よまれ神國の人物とそい
ひつくくやはらむ人くさつのらもねなでくだまをよ
のしつきてよいふほ國學(クニナビ)ぶ玖もねとをる人くさものせる
書(フミ)ども中よ毛(ケ)もの鰭(ハタ)もの神魂(タマ)すて人草の魂まで玖くな
御産巣日(ミムスビ)神のほらくよつくりものくくまりけるへたまふ
もの如くいつてそ邪教の書なる天道溯原といへる書の
中よの切支丹(キリシト)の邪神玖いくくろもく神之創(スルヤ)霊魂(タマ)ヲ
也更(ニ)妙(タヘ)り於其(ソレニヨリモ)身體ヲ等といへる大邪見の説よまの
ひらくよろしうらぬことなりてそはいふ霊異(クシビ)なる産(ムス)
霊(ビ)の神なれバとそ毛もの鰭ものまくの人の魂をつ

ろくくよつくりいでもそとふことを
ぷの神ぞ恨めきつましなきくの人玖何造りけんなどいへる古歌よん
まひてむまんむもをもそんもをびむもをぷもをへ
とらもくくらるこの大神のほ名のんとことをうと玖よくおもひ
志ぬバざるおゆゑ神書よなきことを玖いふなりよりてセハ
よきこと玖ひのむまろぷ玉の緒よ動をびてたべよ志動をびの神
とらそいふなれまく経論の中よ世界のなりまさま玖とけるとせぷ
神書よ天地の立まされたるさま玖志るせるといさくのたぷへる
ところある玖ぞそのくみよいぷりつそふものの
論よとけるところぞ衆生の共業力よりてお
世界のなれる法尓のさまなる玖とけるまでとの。神書ニもとるせる

ところを難思の神力なればもろこしの佛典なればものしなまし神業のくまさをまねぶるものとふことをもりなれば志ろしめす神佛雖(モ)殊(コト)不思議一なるかなとりなもひまつる業力所陽感見不同等ことをもりなもく却而神書に記紀そのつくへのことなるところあるいふをもあやしむべきなりけり書紀は吾(ア)則(ナ)當(マ)産(ム)日將(テ)千五百頭(ツ)と記るに吾(ア)一日(ニ)立(ン)千五百(ノ)産屋(ヲ)とあるとは如きなんいつましの正しきつくへをといふべしそは神よも善悪邪正権者実者の不同あるこのゆゑなり大権聖者の与物結縁示同凡夫のいとくしき神業の辺はまれたり何のゆゑもなのあらんまし凡人とひとくほ神とち私の情欲にまこのせく

まさるの凡人なればあまさへみなしそ苦瀬(ウキセ)三落て患惚(クル)まむをりもくへと桃の子三告たまふときハこれまさくの邪蘇教にて耶和華との邪神なのゆゑもことをもりもなくこつらいこつらく天地万物なん七日に創造しその造り出したる人畜蛇魔等なんしてこつみよつこつらしめこそのしさもの なん造りけりといふく後悔しなんとくさをさめたりつひにそのおそものとも なんもくひたまけよと耶蘇外通にことよさせといふ邪教の大神にこそ却なしておもて大神のほ国なんもまへるやむことなき神業もそのことをもりきこえざれバこなんなりそつるこのゆゑなりされば大神ハたゝ於葦原中国所有宇懸悪鬼青人草とのくまへり所有の二字よくんなんなつくへしまさ安萬侶朝臣もたゝ識(リ)孕(ミ)土(ツ)産(ル)嶋(ノ)之時(ノ)紫(ニ)生(ミ)神立(ル)人(ノ)之世(ノ)とのこをもりて人を

産ㇾ魂玖造りつゞりあくへまんなゝふことふさらさもいそさるなりよう
て天神諸命玖るけまして二柱の天神の鳥玖産ㇾ神玖生ㇾたまひしそ
ㇾるれなゝへてハ天下ニ満りとゐるおゝの青人草をさてハゝの国中ニな
り出る天の益人玖めゝくゝゝ諸神のつゝきほ域ニいさゝひたまもれゝほ
為なる世ともゝゝくなき神業なりとふことゝ玖よくもり国ハ総ゝて一切
の衆生玖とことりよひろく海度せんゝくゝ別ゝてのく諸神のもの
しおそたまへるほ国なるとふことゝりよりさゝてその青人草
とふものハつらりよ見ゆる人のことニてまおそおのつゝのら野山ニ生おて羊々よ
志けりゆえのゝ青州のゝと多くよりなひもまゝみるものゝてその大もとハ
仏天人阿修羅等の造り作しるもゝなゝまゝ神々の造りた
るニても産ㇾたるニてもなくこゝそゝな天然法尓とゝてひとりゝゝの業因ニ

ひの私須弥山の四方なる国中へひとりゝゝでニなりいゝゝ生れ出るものゆえ志ゝのふニ
て人とふ言のハ獨一の義なり云云けゝしのるもの一魂玖ことさらほ
国へ生まゝ志ゝく天神の道ニいゝさなひたまふハとの諸神のほ力なりよう
て青人草とふハせんゝをるところ仏家ニて衆生とふと挙ゝし言のんなりま
ことゝろゝほ国の神業の世ニもゝくゝ大本の道理の正ゝく立とたゝさる
とハまゝことゝこそゐるなれさゝれゝ儒仏二道ハまれまれゝこの神道と
耶蘇教とハのゝくみよ国玖造り人玖救ふとふ神と神との真偽邪正
玖ほらそふ天下の大ゐらそひなすゝゝたゝをさことゝるほらゝゝそとふこと玖
よゝほゆるひまり神目玖ひらをひ神心玖もゝく神書玖をゝゝ根のねも
ゝろニゝをゝもよ諸君ゝをゝもよ諸人のしくもせゝ。　大君ハ天神ニてま
せハ高御座ニすしゝくなゝのら此へてハ天下なるもろくの百　八十魂玖きろし

めしてさきて八ほ國なのこなり出る天の益人のつらなりくるごとく我志ろしめしてその魂我めでくさき通こいでさなひたまひたまふべき　皇大御神の詔言よさし坂るけくものもり給ふしまん大ほ身こてこのこと神代のむしよりこのかたまふことなけきパまことの天神の道とふものハ天下こさの皇國の神道我信受奉行したまへパしさて始きて外こなきこと天こふそつの日なるさが如しと志り耶穌教の耶和華ハ無体空名の邪神のさくなくパこれ大禍ものこて真の神こてハなしとふこと我真ふこほ國人もおもひさとりてむる祭政一致神人不二なる天下獨歩の神道我信受奉行したまへパしさて まさ記の中こ所成坐神名八十棚津日神とある坐字ハなりておそせしところの神の名ハこものくとふことなくてこの坐字とつぎくる為直其禍とある為字とハこれいそゆる字眼とふものなりこむる我宣長ハ如くそるときハ

記者の真心我こぷきてこむるもし筆力の妙なるところも世よはらハれぬなりゆくなりらのことセこぷ世人我いさなふひろめ大事なれパおろそかなりよくこのこと へてそよ記の中よハ生成等の字なこぷめりて一字みてもゆるこもなりそよろしき文字ハなきこなり取天安河之天堅石取天金山之鐵こたとこむるもて八咫鏡の真鐵こなることハ我志ろし先まく八尺句璁ハ天の安河の堅石我もちくつこをることハ我志ろし先ーなりつぎてよいふ八咫我八阿多とふそ八頭の義もそまことそ中指我ちりそくやつあてこるかぷのぷ見とふことこなりそは鼻の長さ七咫とふるよて志る

ぺし八咫烏我紀よ頭八咫烏とふるそ頭の八すぷのりもふる大烏とふ

んまそのうけるやさんぱ記の序ぱ大烏導ノ於吉野ニともをり
けゝし八咫鏡の御形ハいろといくそ真鐵もて八角よつくきる八
すのまり此明鏡なり神代ぱ八真鐵と白銅とぞもく鏡なつくきる
ものそれ此のまゝ二品ともぱ古鏡なそ〳〵つりまく御頸珠の一連金
備せる故もそ〳〵ことわりさてこのまゝいうる古訓ぱよむのよ〳〵とそ
その書の義意ぱよみわりてハうひなまるべし我之女者自
本在八雅女是高志之八俣遠呂智毎年来噉とまるの如き故
モトヨリヤヲトメアリキとよみて八今もなお八雅女なるが如くきこゆ
てわろしこゝもと八雅女わりしてよむべしまく是の字故
コニとよめるもわろしこゝもとぞ是以とわりし以の字のおちたる
なれぱ以の字故くハへてこゝ故もてとよむべしまく恐亦不覺御

名とまる赤の字故よまぬもわろしこの赤の字ぱいとこゝときん
まるべまく赤僕子等百八十神者即ち八重事代主神ノ爲ニ神之御尾
前ト而仕奉者違神者非也とまるつゞきなる如此之白而の五字故
カクニヲシテとよみとく乃隱也故隨白而とふ七字故くハへたるの如
き加此之白の四字をぱらのまゝをしのごとくをよむべき故よみ何
やまりそ蛇足故そへくるなり中巻ままもうる故そこと故くハへ
たるところ何まぱんしてそよまく序ぱ化熊出爪とまるの如
き爪の字まそよくきこえたる故いぷすりまく中巻ぱ大熊髮
出入即失とまる髮を鬘の字ぜ
いぷするところなき故なおいぷ
ぱまれそ〳〵ぷくしこのれそ今

国と云ふて 皇大御神の知ろしめすところが總じてそれ高天
原がなかといふべく 皇大御神のおはしますところを別して
まをさバ日宮がさしてすといふべし高天原にある月も日星も
ひるがゆゑにつかふさるにいはゞはまての国なるべしそれが佛家に
て八二十八天あるを云いへりまた諸天は身に光明がありをる
がゆゑにこが日ともいへりまた上は下が照らめるのことをかりと
して 皇大御神は中ツ国また根国までが知ろしめしたまふ
といふことがましこが志らせらバ神書の中にことありのきさ
にがりきさところがるぞおしまた夜之食國とはるが月
宮のことにてその名義は夜るがこの生神の食国とし
てといふ義にてはなくこそのおらぞうるに月は闕なりとはる

とおなじことにて此日食月食といふ食の義にて月を
日の為に夜々食せらるゝものゆゑに食国といへるなり
このことをよくこゝろえておもひしらばなほさらが唐国より
天文地理等の伝来したへの神代より伝りしことをも知
ものさとりぬべしそはつごもりつきたちもちづきと月なぞがよみあそ
へてたゞそのものありて竹が木が植るくさぐさをのを
りが志りて志るたゞの風とくく成長の方よりおこしるに
天の八重雲のとるに志りて夏高津日神日高見国また日月星の神
なることが志るかことさに外国の天文にあらぬかまてるゝことが志
るべしまた韓国常世国根国海神国なることが神代のむね
しりとく志るもるぞそが神国の廣大不可思議真實

有用の天文地理といふものにて これ天の時に因り地の利に就く等の至易至要の法教也洋人どもいへるに天をこらしたりとても風船にて高天原へのぼり日宮を見きはむることもかなはざるべくまたいかにかしこくて大洋を測量すとも龍宮城までをさぐりもとめしることをえなかなはざるべしされバせんせるところ器械もてそれりはからそふ天文地理の学をひとつくりおのがものとならしえたるべきなりまことに大地の旋轉するによりて夜る晝るあれどこのちはるものぞなどいひのゝしるぞ春花のめでたきにむかひのれて

春風來誘テ我ヲ山鹿杜康ガ家不惜千金價浮盃ニ一片花

などものしつゝ三輪の味酒をいふくのまさき酒ひさぐ家のめぐり出たりといひのゝしるおびたゞしきものなるぞかし

しるせる月讀命と申す御名の心をもよくおもひて夜之食国と黄泉国とをひとつものゝ如くいへる人ありこハ服部中庸がものせし三大考などの説にまどへるひがことなりかれ書ハ地球等の洋説が真説となる時ハそが神書ハみな妄説となることをよんづかです鏡に冨嶽をうつしてそのかの如く小山なりとほけつらひまた採木に桃をつぎて桃の子ハ桜ともなるものといひまた竹筒に生蛇をもりていつものごとくなるものなりとこゝろもおもひ人にもあるにひとしき西洋窮理の似是而非なる兒情妄見の小論によりおろかにもそが皇国神代のいまを養急と咲いづるそのまれ花のごとく如虚而實なる霊妙深大の神業をあるもしは書をとさごとせんとしてさかりにものせし大おぞふさたなりまづるを宣長がくせしくも考出たるのもおくてこそ高天原も夜の食国もいぶかしきくまなく

らびぬまとおくぶさして世ニひろめすき篤胤が空鉄炮の玉の真柱(ミハシラ)なもて
世人攻打(セメウチ)おとろのセーハたまくおもひのやまれる禍事(マガゴト)ようそけさしやや
まちとふことハつよしへの君子ニもゆるすことなれバふのくとのむべきことよなら
おほまに(ミクニニナヒ)学の世ニはやされさる故契沖法師荷田東丸加茂真渕本居宣長平
田篤胤瀧橋千蔭ぬしらつとそてふるひおこしてる日本心をバうそてもおむ
べしさてまこま国の祓とふものそ伊邪那岐命と須佐之男命とよ
おとりこる神業よてこハま国中ニなりいつる天の益人らのはやまち
てなせるとまりておのせるとの故作不故作のつこととのたとり祓も
らふ神業よてこれまくくせぶ仏家の事理三密の懺悔とそ
のことをりおぶきさのなれバ大伴家持卿の歌よ

中臣のふとのりとといひそらへのふ命もちそこなれ

とゆるまさとしく祓すこみたれるも真心もちくなれぺきさなり
大祓の中ニ大中臣あまつのりとのふとのりとごと祓のきとゆる大中
臣ハ佛家ニていへバ現前傳戒の師まこ傳法の大阿闍梨の如きものなり
おもひきやんのようるさとりも祓そらふぺしとハ天津神風
まこ祓とふことハ天竺よても化ることくなく祕密儀軌建立
曼荼羅擇地法の中よ大神廟中(ニ)祠(シ)大祓(ヘ)處(ニ)とゆりこハ大梵
天王よりつこへこしものよやようくきもる人ならバきのまゝしまこ
ま国よつこもれる八聲のそらひとふ神言のこころことゆりなよく
きもる人ならバつぶらニきのまゝしまこ武藏国多麻郡五日
市村阿伎留神社ニつよしへ倭国より中臣の兄勝麻呂といる人ふ
たりくぶりきて谷貝久のゝハちもて笛祓つくり鹿祓よびつつ

憲法類書

とりて白うさぎなをもとのごとくよりより今ニいたるまで年々十一月ニ鹿白兎なをもち杉もてつくれる神より枝兎おたくき大麻等乃豆神よりたまへとこひのさ八聲のそらひびきて兎となり笛吹村にとゞまるそこの木もさ鹿の肩骨兎やくよしきけりとましのらバゆきてとそまくりもさてま国の神祇と仏家の懺悔とハ真偽となるのゆゑニそのさまハいさゝかのそれなりもそのことをとりたゞしきニふさりてハまさく愚きものなれど耶穌教ニてふ懺悔ハ邪教兎信受するものどもゝみゝ自身より生血兎出し天主ゝ主もてつくれる人のをやとふ亞當夏娃（アダンカア）のむかしより罪とゞ兎懺悔してゐれ十字架ニかゝりまる罪人耶穌の血兎もてつくりまる酒兎のみ基督の肉兎もてものせし餅兎くらひ邪徒のむれニより虚妄不実の生天兎まこと〳〵地ひゞくごとくニ兎ふりとゞもとゞもる邪ゝゝにしをへまバもとより

そのさまもことなりもそなる大邪見の大禍事よりてゞの神佛のほをこ〳〵よい天地よりもいと〳〵たゞのひとるものなりこのことよくこゝろてこのまゝよまゝにふるまひそこゝろなをれまこの邪徒ら妖神耶和華兎あゞめて天父天主真神なと〳〵ふゞのゆゑよゞのその名や〳〵似る兎もてま国人の中よりこの邪神兎ゞ天之御中主神なりとまいひのく主りてま国人兎のやまちやるものこの来ないで今るもをこりぼく〳〵これバ人くよりそのいゝてよのし中むこのし大友宗麟とふをのこハ愚痴よりてまゞ織田信長とふひとハ邪智よりてまゞこゝろとせんとをりし國内ゝ弘通をること兎ゆるせりよりつひゝ邪のまもるろびまゝ皇國の神

民二十八万餘人をうしなふまでよ。神敵国敵とふものハこの天主耶穌の邪教なるぞこの一事にて西洋各国の中よハ智者もあることなきまでハ挙ていふ邪教なることハ疑さとりたる人もあるべけれど他国ハ敵地のことなるゆゑ今ハ置ぬ。国内よりあらハるゝ邪教ハ真正なる天神の道ならぬ。この邪教ハ邪神の教法ハたゞけものゝいたれるものなるゆゑ天地ともにゆるさゞるものなることハ疑ふべきなりさてつぎに天と地と神と魂とふ言のハ皆古事記巻ニ於是有神壮夫云云トアルヲ以テ御国ノ神トフ言ノ義意ヲ知ルベシ

古事記巻ニ於是有神壮夫云云トアルヲ以テ御国ノ神トフ言ノ義意ヲ知ルベシ

ふ言葉なり神ハこれことふことをはじめてこそはらハざるはなけれどもこの天地ハ凡人の目ニハ見えねどもこの天地の間の形ハ凡人の目ニハ見えねどもこの天地ハ皆神々のはたらきあるものゆゑなり志のたゞへがたきものゆゑなりよりてこの天地ハ隠身の神の義ますますもつてこのことなる上の義なりこのゆゑにこの天地ハ隠身の神のはたらきあるものゆゑなり志のたゞへがたきものゆゑなり

とふことを後世ともへきなりこのゆゑにこの天地ハ隠身の神のはたらきあるものゆゑなり志のたゞへがたきものゆゑなり

事幽事神事とハなるまでもなくこの天地ハ隠身の神のはたらきあるものゆゑなり志のたゞへがたきものゆゑなり

言ふこのゝ義ハなることをもつて文殊問経よ称ニ天字一時是レ入業異熟聲とハなるまでもなくこの天地ハ隠身の神のはたらきあるものゆゑなり志のたゞへがたきものゆゑなり

も天地の中よ一の物なりとハ形なくなきものとハなれど御霊ハりこれ敬大元の神とまをすことをもつて

いへりほ国のことふ言よ神の字ハ陰陽不測ヲ

之ヲ謂ヒ神トなるやよりしてなら𠮟魂ハたゞたまとなこのりもいへまことたましひといふときハ玉し火とふことをもくなるなり志のるまゝさたまし𠮟ぬともいへるハ玉し膽玉し井居のんまも今たましるといふつゝきくひとそろういそ人の魂とふものハまろき玉の如きものまそいつましへなりとも却のきものんのおこりおもむくまゝにくゝふきまろたりてゐるものなれバ玉しるとしもいへるなるべくまゝくまへの世の作業のまゝく人となれるよハ人のたまとしなりぬまゝく毛ものとなれるよハ毛ものゝたまとしなりぬるものゆゑなり志のいへるなるべくやなら𠮟まゝ魂ハ神我のことをいてこゝにハたゞ𠮟国のことなるべくて梵土もても志のいへりそは野山の和字義の中ニ

四塵字義者梵云ヲ怛蹙此翻為我ト我有三種二ニ人我二ニ法我若見塵字門ヲ則知ル一切法有ト我人衆生等是名ヲ増益ト是則字相一切世間但知ス如是字相ヲ未ダ曽解セ字義ヲ是故ニ為生死人ト如来ハ如実知ス実義所以号ス大覚ト等とのるこてゐるべしまた国人のむうしよりおのまゝのことゝ𠮟まろとゐふ如きし金剛頂経ニ五字門一切法吾我不可得故とのるおのづからのなこてゐいで諸人よ吾我故ニ有我𠮟志り不可得故ニ無我𠮟志り凡人の魂ニも諸神なりて幸奇和荒等の御魂のことをりあり𠮟志のづからもそること𠮟志ぬひ人の魂とふものまこれ即空即假即中なることをり𠮟さとりこのて邪徒らの仏家まて法身ハ無始無終報身ハ有始無終應身ハ有始有終とふる金言𠮟ぬをこて妄ニ生覚霊の三魂𠮟をそふ覚魂ほるる毛ものゝ離もの𠮟生魂の草木とひとしく有始有終のものとしてゐるつゝひとりそふともさらるつゝとゞなしといへるハ如キ

まことの有情非情のことわり故ぞ。大要見ることなし。さて梵土の事（ヒト）
ヨヲ（ヒト）と言なり。つまり国と言もんもまことの故なり。しかして梵土にて
梵王にてあるゆえ、梵書なる天竺の神書（カンゴト）なる大梵天王ハ七ツの神言のたぶときことを説ひろめ、天竺国までハ
却もひろめたるなり。つぎてまた国の神言（カンゴト）のたぶときことを説ひろめ、天竺国までハ
をさまれども男にても尾にてもなりくてなりあまれるところなるもの故ならし
まことめでたきハ女にても目にても何にてもなりくてなりあふるところなる
もの故なり。されバ言葉のことわりもこの如くまた国ハ言々霊（コトダマ）のうつりてその言の葉のさち
をふ国なれバ言葉のことわりをよくまたる人をこそぬてまなびきわらべきなり
けり。しかして世に言葉の生起本来故のことくなるところへさそのところへきう輪回冥
足自由自在なることわりつることを説きたるものよりあり
まことのことわりのよとこころみよいひわらそふ人ありこのときハこのより説ひらそれ

このをりハるまことの故志てでこのことくなる説ひらそふいとわるまことのことわりなる。しかしてもくく言葉といふハ人ふものこころよいひあらはすまでハいつるさまハいこのなるものぞとよくてその言の葉とそのれいつるさまハいこのなるものぞと志らまゐりもる人そよくくの故ひをえく却のものいふところ故のつりをよこそてなきもものよねこうをりよふれて却のつこのらねとるところのおのの心よりるハあなるがしともねもひまくハいな志めをともおもひなまものまそその却もひまくハいな志めをともおもひなまふる出入る息のつ（ウダナ）と言よいひ出んとするふ風のるこのさそれたちなびきて鼻内のところくよりいつる故古

もてゐる如くまいひとつに口もていひ出あらそをぞのまなそち言の葉まそこ故見るものきくものよつけてよくいひのぶるこのまさなりよりてやまとうるさくハひとつん故たねとーてよろづのことそなれりいるといふされバ言葉の大もと六心と息とのふたつまそこの息と心とよハもとよりうるのさそよあのあとよなといふべきさまくまりもことをとりもなきものゆゑくまそこのくこころあとくもさきともなるものなれまことなる言葉とふものもこころの如くそのの實体故ゐきハえそこれまく因縁所生法即空假中なるものまそいそゆる出息ハ故のつまら五字入息ハ故のつまら六字なるぞそうしよりて一二三四五六七八九十百千万

の言葉となり言魂のつきそこらき故なまところ故こゑの定位故きらをる落くく古人のものゐける五十並の聲の圖ニんゐすとひこの生起本末故もてこの高下長短綾急前後等自由自在なる言葉ゐまくこきなるくくなよいひなげつらひのあぶれる位のこゑハいつもねのぶ落ものとゐまひさぶれる位のこゑハさ免てさのきるものとのみおもひまこ言葉の大もとハんなること故きらぼそまく有情と非情とのこゑゐまひるこころらよんつまたのこゑすこゑの生るもの如くこころへまふこゑのすりるまるまも故そなといひまこゑ六ふものハ歯なとよねのつるものよてなしなといふ故とみよひとつきけのこととりさもねりげなれどふくひおへのまなほらぬこととなりそほくあといへハ故のつま

らるとなるハある故つゞもれバくとなるとおなじものてこハ横
假本音豎留末音合成別音の字音とふものなり外國人ハくあ
くときやーとふ故ほ國人ハのろく直ようといふが言葉の妙なる
ところなりまた滿のなまし人もことをんーてものいへバ歯のなる人の如く
いつまでの言よてもまるものなれどんせをーていふときハものいひざ
まれるれることを世人のこなる志るとふところてあれる位のこゑやさこの位
位よるふことなりまたなるとなる位のこゑもなるハあげまさいさげて
くるひまさのべてもつゞをてもいひおそくもやくもいふものなりこれさな
言葉とふものハをりこ祖そりものよ名れてあるよんのまゝくりあるこゑ
なるのゆゑ三せんぜるところ子言方語とも大もとのんの如くよ
あらそれて内のん故対こ向ふ志ろし志るれ不のなきものなれ

バ却のつゞく志るものなりされバその大もとあるんの故おきくたゞ定位
の生起本末のこ故もて傳ふものハ言のもと故さとれるよ似よく
言の末よまゞとゝるとゝきこゝとなれバそのことをろうつひよきこゝに
ゞさしよりて言よ魂なるきこの祖ゞつらひとやいまれ志るキ
却のまるいゝゞとゝく五十並の聲の定まる位故いつまでもて
よしとゝよてゝなし定位のことをろうまるのせそろらきハ
まゝろらきのことをろうよまゝこゝれそて却ゞつらふゞゝとゝいふものり
五十並の聲のこゝ世よ四種なるゝ工ユと故のきヨけアカサタナ
ゝ工ユと故のきヨけアカサタナハヽヤラワとつらねまさアヤワ
カサタナハヽラとつらねるふさこゝろさい却のくそのことをろうのま
ゞは國の言葉よハのもれのこそゞよくこのなゝへるとなるひ少し

いうまへなるハ悉曇の摩多躰文よりあそせる後人のものぜし
まやはらんなをよくこのみやぶへし日本ハ言葉の御国なるがゆゑ
に阿行のまことをつける言なるべ
まく濁まる言のうらをつける言葉なきをもうこれ天竺一等と
ハ風土の大きなるたがひなるがゆゑなりまことのみち
の風とふるハ出入の息風のことくにてこれをまた報風ともいひ
ひ空吹く風をハ依風とふなりこの報風依風のごとくなることを
我志らぬハものことをもよくまもりてことをもり
おもふやうにハ両ハつくる大事どものことをやく神代よりつゝハ
りつゝとをいへく 神武天皇の大御歌に加牟加是能伊勢能
宇美能とをり伊勢ハとの御国ゆゑにまことの道もひろめ

こそまことのうらをもうこのごとく一字金輪理智二拳の大事ともふべくや
なるべし彼印明相承の人よふべしさてものらいひあげつらふ中
にも神儒佛の三道我世人よりきゝとをれバ
こゝろみよ是非邪正我ほどつらふて見我いふらしこゑをの二
のくもるものをきよくしうらあることなりそは
法師なれバとて人の身にしてハまバ人の道なる仁義よりまも
きてハこのなふしまく儒者なれバとて神国より生まれたる
ものにしあまバ神国の道我ほどつらふハ自
土の道我もくほげつらふハ自国ハ神力所成の国漢土ハ人業所
感の土なることもよりまもりまく国法ハもとより国々各
々なるべきものぞとふことをもよりまもりまく佛法のごときハ

廣く十界の天理教をしへて一切衆生を佛道よりぞ教法なるのゆゑに天竺の國法といふものもそれにいたるきこそふことなるべきぞかし儒者のごとくてもを
漢土の國政なども皇國の國法ぞつらんやぶるものなし
ましまことを儒者なおもこの皇國の御國政ぞつらふ
べからず。ましてや世間ぞのがれて仏界を去むとまる法師さおきてをや
可笑小僧室本来何所存高天唯有月穿壁照神魂
をよめるごとくふたをりくふたをりまで深の神
世の中の人よりつの松原とよぶ名こそ嬉しけれ
それ儒者とちがひて聖人の道ぞなおとくも法師となりて佛陀の教
ぞとをもはべらず。この國のことをりまのせをくときさとし

いよくこの天神の道のたふときこと
皇國の法師といふものなることをぞ神國の儒者
こもせよ神道者こもせよこの皇國の遊民神國の禍者
よそこぞよくこそて真心ぞなるものハ洋学者も佛学者もこの
皇國有用の神民なるぞのしよりて法師も儒者も洋学者も
國学者もたがもれもこのみよそのそこのところの道くぞよく
よくまもりいよくこのきこそ皇國の神徳ぞ天
下よたをけつそこり外國の人草まで。ぞあまねくもこの
そんとまことの大日本心ぞおこりたつべきぞこの無道ふ
なる邪ぞ法師原の中よことぞ國家のほろよもそくいそれ
なく僧家の浄財ぞもく僧きをなりそこをよ法佛ぞうり

こゝろバ法神なり聖賢なりとそれるものハりまことにお
ろかなるかなまへにいふことくけだしこハせが法神の海山のをしへをまかせし
作さとしのことをりなきらぬるがゆゑなれバこまきなハれむべきものこそ
海山のをしへなまへてし神つ代の神の心なきる人もこのよ
為國說仁客千金求一枝山僧何曰利花下惜春時
させたはとおもへれるの儒典にいつる仁義礼智信とおものハその
いちいづきしなりともひとしくなすそれことわりにしまかせて一なる
なべきハもなすもちおのづから五徳なる全じて得ることまたくせが
台家の円融三諦の前後次第二ならせるこの如きものなり
また仁義といふこと遵の行均法師がものせし龍龕手鑑の中
なる仁の字の註に音人心之德愛之理とありされバ義者心之

制事之宜也といへるハこれによりて朱文公がものせしなるべしまた天
命といふことハ南山律師の語に儒之所云命也釈之所云業也命繫
於業一業繫於心一といへるなるもておもへバ儒典の天命ハせが佛家の
因果にてこれなるつのことどもすんがまなすなち高御産巣日神産巣
日の神業なれバ人々このことみなそのたぐひなるいふなりなれてふべき
ものにかなからんとぞいふことなきもひきるべきなり
天道是歟非何無悟我非悟非則知是天道實非非
まく法国の神業の世に利益あることなき人ことなくにしる也るにハこれ
大同類聚方なる神業の薬方なりけのまし延長三年の古写本な
平相国入道が厳島の神庫へをさめおかれしなるつせりといふな
全部一百巻をそろへみしにいまなのをなすくめでたき薬方なるつ

めたる皇国神傳の醫経なり諸神ぷもの藥方ハまゝく諸佛の
教法ぬ越とをたまふぷの如くまてつゆ
のみぷへゝそものしたまへるものそなをきなりこれいそゆる知病
識藥應病授藥の業よりく達しまゝぷゆゑなり
允醫の淺智ぬもく窮理セし藥方とひとつなるもひなし
ぷ人の病とゝものそ地水火風の増損と鬼と業と心との七種なり
そのこゝらまぬ越志らるまのありもるを人ハ摩訶止觀の病患境の解
釈ぬたつねそよまゝこゝみこいる本の外ぬ寛仁三年の古写本と深
江輔仁朝臣の真蹟本一のりときけるぷいまぷそるをえぷまた
正平三年の古写本ハ第一百巻長寿の藥方ぬ越一巻のミ存
せる越そそうそぷの中ぬ　登勢比古藥　多仁波國小川月神社

耳傳流方祝子登世彦之所　上奏乃壽表延流久須志貴仗
廿乃利日々朝毎ニ起出天東方ニ向天可用于　淳免乃美
夏日ニ乾天塩ニ比多志天多久波不陪之佐湯ニ天用とゐり
こハ長寿の神方なれぷこゝらはげめ人ゝ尊信してもちるまセ
　まゆ山男ニ色香めぷよゝをと女子ぷの手をりておる梅の一枝
　庭上ノ好文木新鶯聲自幽リ一
　君ぷ為いで一枝と折ル君カ孟軻失風流ヲ
　君ぷ為いで一枝と折るへぷもものまをしまものまをしき學のやゝ
まゝ豊太閤の藥方ぬ儒釈両道越我国の神道と一服ぬまして毎
朝一度つゝ用うれハ心氣雑念悪癖一切の病なしとゐる越信
用セハ無病幸福の人となるぷてしまゝつぷそよゝ荒井君美
ぬ書紀ぬ橘之橿原とゐる橿の字越朝鮮人なたつねつまをそ

は国人の七月七霊よ水抜手向るをもちてもちうるこのゆみそそぎ抜とりてそはらの草のことなりとをしへらまきといつるとまさこのそそぎとふ岬三ハ塾気抜さるて功能抜もそうとふ抜まくて拾ふ伊邪那岐命火の神抜ますてこのまましつる時神抜こも生ぬひていそまもしは黄泉国の汚垢抜をらひたまふことなり黄泉国ふ塾気抜さる功能ふる青萩原抜たづね水抜ひ身まそそぎてよみそけ抜きよふ抜まくるものなるへしさるハらの小萩草なもく七霊へ水抜手向るハられまくく神代のくしき神業のよこもしるるところそこのら名まくく伊邪那美命のまた豫母都国な仏家まそいふ地獄とふところなとくふ人ほまでまつるらへしは神の吾者為黄泉戸喫とのたまへることまさ桃の子もてそらひ

まもしことくまこつぬきぬきなしまもしことら抜もておもふことそ仏家ニて云ハ鬼趣の一処なることはきらけしそはら人の死て鬼趣ふるもの〻始き鬼趣のりの抜くろまそのむまのものまさぬこまりてたもまそ抜いてうくきの鬼趣れ法なるの思なりこのこと慧澄和上きけりつぬきたきのこと法苑珠林ニ引ころ桃のことふ世人の志まることとして梵漢も国もおそなし鬼抜さるぬさなれハまものふなり仏家まて餓鬼道とふハ多分ふまさこのる名まくく十界のなら鬼趣むこのり果報ふ優劣ちさこの八ものふるものハなきなりさてまさは国まて大神御神なしまをまそのおもむとふ言ハさの密教まていふ字字とその義意またおなすし字字ニハ三身般命供養等ま義ありよりて梵音の一字ニ千理抜含めるの如くは国の神言もまくくまるものぞとふことなるまうまおもひあるへきなりまさ崇神の巻ふ神浅茅原とある茅ハは仏の金剛座の上ニまを

七ツの社吉祥草と称す。此なります。国人ハ古事記日本紀舊事紀古語拾遺
姓氏録諸国風土記万葉集延喜式禁祕御鈔等のほか書籍国家のまゐる三真心も
て見もきゝもしることゝ神代と神武崇神神功等ほか巻と我よりこそまうまみ
あみのへく鎮護国家の大神ハ大国主大神ニてこの大神のほか祭ハうこくも
天孫とのほ神約ニて国家の治乱ハとうりをきこの大神のまろしめ神業とふことゝ我まるべき也

山僧披記紀ニ杖月入窓寒ニ遥念三輪社願朝家鎮安ヲ

大三輪の神ほ前々いつきなハ異國までもやをけのるらむ

日吉の大宮大権現ハこの大神ほてこのほ神延暦四年庚則十七日執金剛神
のまゝうち祝ほらひし吾此山王日域冥神陰陽不測造化無為遊心法恵空化
實道弘護菩佛護国為心と山家大師ニほ告ほらひし天台山宗ハ仏
法ハまもりこの大神と　桓武天皇とほ大御心とてほ国ニろ

しなりよりて山家ハ宗風ハとまもる国家れほ為我むぬとせること山家学生
式ハ国宝ニ照ス于一隅ハ此則ハ国宝ト古哲又云能ク言ヒ能ク行ヒ能ク言ヒ国之宝也三品之内不能言不能行為国之
能言国之用也能行国宝ニ能行国之宝ニ故ニ古人言径寸十枚非是
賊乃有道心仏子西称菩薩東號君子ト悪事向己好事與他忘
自利他慈悲之極なりといひまさ凡国師国用依官符旨差任傳
法及国講師其国講師一任之内毎年安居法服施料便収納シ
當国官舎ニ国司郡司相對検校將用国裡修池修溝耕荒理
崩造橋造舟植樹植綿植稗穿井引水利国利人ヲ講経修
心不用農商然則道心之人天下相續君子之道永代不断等と以
又草菴為房竹葉為座軽生重法令法久住守護国家とるこてまもし又

あきらけくおもちの仏の古代までも光つゝへよ法のともし火
おもなき浮世の民よおもてもこの立柿よ墨染そでく
まことよ八神ぞ仏ぞと思るべあと我こそと何ゆゑよふ
志つゝめて拝のまの色八そんなのもそんなのも
極そくよよ花のそゝめさともなしんのこそオハいやしれ
たまこゝもきまれ仏もさむりきオハなくハしの物よそ仏の宮
なと仰る古歌のゝ我志めぴやの宗の人さハとりてきこ日本心の真心我物ゝ
却こし国家ぜは治る上日之中二分内学一分外学の宗式我まもりて学業我
もみ物のゝ有縁の諸人我物もこゝろよさとし皇国の皇国たるいともたやときこ
とり我志もち宗廟の神我うやまひて四方の国我まこゝの〳〵天の位の貴きこと
我えてそのゝぞ我天の下ゝ弘むべしとふ　皇大御神の神勅我ふくゝめこゝみ

りて全国一和の真心我もて廣大深遠の神恩我報しをもゝむへき也是ぜなゝも
妙経ゝ十方世界通達無礙如一仏土とゝる神業ぜて乖是国王と父母と三宝と衆
生との四恩我報ぜるそゝとあゝして憲法の守二條ゝ仏法我仰げて国用まあ
てなまゝこの本ぼいなるぞゝし其只たゝきゝ我ゝ綱子の手足ぜ国のぜなゝ二
志そをゝしくをゝしくしてめゝぞ仰る天神の政道ハ実ゝ是万国善政の軌則なりそ
のゝぞゝりたゝきゝ国の乳をゝ〳〵我ゝ
千歳惜名ゝ士豈誰圖後栄ゝ断然唯決死報国義盟情
いゝならゝくなゝらゝくなゝそゝの鬼とそも国ゝのゝなゝぞゝし
北風拂揚柳ゝ籬下菊猶存賢者不辞世極知思画恩
やゝ太刀ハさやゝをさめてまもらゝんまもゝらゝくへゝりそゝ
人生多楽事七十古来稀何望浮雲富山僧一衲衣

いつまでもあけぬくれぬといふなかに身をそのぐりつつをしやぶ

狂空々寂々空々空をきわめ誰か仰靈山月閑々草庵公翁

西行ほどのく汁を似されぬともこころハ墨染の世とく

天台大師のごまく調達(デウダツ)盲誦(モウジユ)万言(マンゲン)皆(カイ)不免地獄(ジゴク)業特誦(ゴフトクジユ)一行(イチギヤウ)偏獲羅漢(ヘンクワクラカン)果篤論唯道豈関多誦(タジユ)と雖(イヘドモ)佛法の興廃ハ僧徒の善悪よより其善悪ハ道心の有無よより其有無ハ善知識よりこの

ひて真実教のこころろ我真心もてよくきくことをのぞむるなるべしけだしこのく

ごとく我よくきゝ其のつよハ人善法悪法善人悪人法倶善人悪人法倶悪の四句なりもてこま

かなる人と法との善悪邪正なるをハ法ハ我よくさやかにとも

人をハあやまれたまくべく法善人悪なるをハ人をまよつことをとも法をハ

あやめこふよりべしまた野山大師の歌

いつまでもよしもいつまでもあしきそんをりくこゝろる人のこゝろ

とあるごの如く人のんよりものハ教法の善悪邪正よりてよくもわるくもなる

ものぬ名国民ご信奉せもる教法をハよくその善悪邪正ハらぶべき

ものなりすくいのよき教法なれバとく一法をのうまて八天下の諸人

救ちかく利益もることつくべきたゝこバ鳥ハとる八網の一目なる

きごとも一目のあごまてハ鳥ハ得ることあるこの如きものとふこと

ろり我よりも甚ひどきなるべきなり源君天下ハ平けたまひしまり

る浄家の僧ハ前ご出くこのしこのんご君ハま先祖より代々浄土

宗よてほらをたまへバ今より八宗九宗ハらな廃してたゞ浄土

一宗のみ八天下ご弘通せもたまへそ諸宗のこゝろをんごとも世よな

く日本国中の人民の信心もひごつなる一致よなりもき君ともニ

そな往生ハとくべくバ利益もも深大なるべし

まをせしかば源君打ゑらゐをなをされて大乱世間のうれをなをすことゑらきゑらんなひとつのうつくしむけさせらればよくなりぬることものなりまして生死なき出離もする往生の一大事よりおきてはもとより一向専念なるべきのなかばさることもうなれと往生ハこれ自己一分の望きまして天下万民の願ひよりほかにはらし天下も万民ハ根性千差なれば願望も亦万別たるべしきうるされ今おほやけなくもまうくりまして天下も万民なあまねの善道よいさなひおもなをたをくべき職位る在る上ハたゞ浄土一宗よてハあなハしよりて今より天下の諸人なをくふのゑうひろく諸宗なく信用をへしとほこゝへあらせらまし天下も諸宗諸通なくなおもなく再興のゑらしをたまへるほしとのりきたこのねも月ハひとつなれども又井上氏のきるせし源君のま遺訓とふ書りたづねてゑま也又ほ歌ニ

おこゝろをゆのべ千里の外もゑも牛もの人なれ人なるセ人
立居も杖なもゑられ老の身ハ国安こゝろといのるぞこゝろ
まうりなきいのもハ弥陀の指ひよて山ぎさぬく六字とゑる
天下ゑのまゝよなりぬもハ民もゆさこうよてゑ日光影
まゝ　院のほ所よりほ大刀なる日光の法社へをさゑさもたまひまう
鳥丸大納言光広卿のよゑる歌ゑ
　於さめるつる我も汁のこさうろ不まるやう免秋津洲の主
源君のま霊の先嶺ゑまつまりおそまゑこと八洗尾大神の霊託よく

いと志るのみなもとなれバ慶應二寅年九月十七日ほさとしごと
ほりきこそそのこゝろのまゝに
むつかしげなるさまして山よきてこれバ宮居なり　松風の音
源君ハ天下政をさゝへますまして私領の地二百四十万二千石政事な
天朝へなり徳川領と称する地尺寸たりとも天下よりとめ
たまハさるハあるものさきよりの大日本魂の神心よりおそれまさ
ぬやけしからぬ事ハ外国よりその一ツ也ときこゝろえて
こハまつくにの大国主大神の生大刀生弓矢天詔琴より神業より宇摩
志麻治命の神業なりぬさもたまへりまつることさゝえて
生弓矢とるべき身にしてはらぬともひのまわりきハ天の詔琴
まつ源君の此遺命よりてなり山政慈眼大師のこゝの如くものし
たまへるも　天朝国家のほゝ政事も日本心なりけれバ大体我
山のほゝ修法のそれなり　今上皇帝玉體安穏東照権現威光倍増四海泰平
国家豊饒佛法紹隆利益無窮とこひのまゝし
いよ〳〵の天の岩戸もひらくやらむあけて嬉しき仁王門のな
とよみたまひきとまをして神書よりて孔子の儒教の如きハ
ハもとより青人草の道なれバさもつゞめぬべきことなれど其の仏法の如き比丘
比丘尼優婆塞優婆夷とて出家在家の弟子ありのみ真俗の道よ
おきてさらさらりハなすといふ事もせぬところ女男のまぐハひ政なし
ぜさる仏政おねともをるをいよ〳〵なれバ二柱の大神のことのまぐハひ政なし
てものしたまひしまゝよさりさてこのくにのりひろこれるハいかゝよもぶ
ふしきことゝおもひつゝるまゝもよくおもへバ記二天神諸命以と伝る神のまゝとして

ひろごれるなりけりこゝにつきてくさ〲いふべきことあるなり ひとついはゞ伊邪那
岐命妹神をこひしたひて豫母都国へいでまし宇士多加礼斗呂呂岐弖ま
しつるさまを見畏みて事戸を度し吾者到於伊那志許米志許米岐穢
国而在祁理とのりまして禊祓をなしたまへる神業をのこれど
皇大御神の男神となりたまひてたゞひとりおはしましゝことなるにこれ
すれおもひはかりたまふるにことの神書にハそもそもより女男のまじはりを
なしまさぬ法神もあり又ひとくさハまじはりをなしたまひていつもそこハ
いとひすつべきものぞとふことよりを志るしおきやましつる神業も
あり女男のまじはりをいとひ捨て志むる仏教と全くおなじき
ことありげなるかゆゑにおのづからまたよにひろごれるなりてこれもまた
ハち皇国の神道の外国の諸道にことなれるところなり

このゆゑに仏法の此国にひろごれるハ諸神たちの御心なりといふなり此国の
神道ハそのこの如く在家出家の二道ありて深大至妙なるがゆゑに僧俗男女
ともに皇国の神道をバ信受奉行すべきことにて神道をば信奉せる諸人も
仏教をば信受すべきなりしかるに心のせまき神道者流の人ハたゞひとへに
女男のまじはりをなして世俗の繁栄のことをいのるが皇国の神道とおもひ
女男のまじはりをなさゞる仏道ハ天地陰陽のことわりにたがへる邪教也
とそしれるまゝ不得意の仏学者ハ女男のまじはりをなせる神道ハ三界六
道の生死をまぬかれざるをしへなれバ仏学者の信受すべきものにあら
ずといやしめるのみに死情をもて是非をあらそふハともに神道を
も仏道をもよくしらざるなり沙門釈子の作仏を求るハよく作仏して
生死に自在を得てやがて三界に還生してんのまゝに一切衆生

救濟度まふべき為なれバせんもとところ皇國の諸神の如く世ゟ出て救
苦与樂の大神事ハなきものとなりされバ
吾歩紫雲去愛蓮池上仙一生依浄土百歳不求天ヲ
あつき日ハきてぞ志のふほ仏のほ玉の池のもも葉れ
とも人まものこりこつころも志のこひのミ地もともその浄土ハ弘もこ
むるの大根の真心ハとく神力ハ証得しめてこゝさ神となりてんのまく
ゟ青人草ハなをもくハむとなりもるのゆゑなりようてめて
さゝ神となる為ゟ往生ハぬ作仏ハもとむるハ神の道ゟも
仏の通ゟもよくこのなへるよろしきぬきことをと
きハよくまゝハ神通にハきさゝらゝあらそふとこ
ろハなのさなりまつる神道ハあげつらひやしむおそ

法師ゟも観世音経なとの説をハ何ともおもひさらおまく仏道ハ天地のことわりまた
このるをしらぬくふ国学者なとハ仏道の意ハ志らぬハふまでもかきことまて
神書の中ゟ貪瞋痴のおそろしとハいとひきつゝきことわりとひきつゝきことわり
神業のゆゑをもまつこゝる大切ものなれバさもものハさるゟまておくべきなり
との諸神ハお心廣大深遠ゟおわりまゝその中ゟ孔子の道ハさらひ釈迦の
教ハさらひまく洋学ハのゝしりなくおろかなる私情偏
固の心ハおしまきぬなりてく法神さゝハ人草ハろくもくさんゟ落ゟとて
神議りよそわり給ものもましつる神業のふのき心をもおもひあこゝをそてお
きつゝの名利の為ゟ神事ハこゝろをハいのりまゐりこハ儒者と僧
徒のこゝろをもて国学者も神道者も農工商も皆同こゝとなり
まことゟ神と仏と聖人と凡人の如くおもひなしてその教法ハそむる

もの八不ことをのうの御のゝ智故廣大なる神明も仏も聖人も祖師先徳も皆御ろうなるものとおもふゝゆゑんなり人ハ春日大神のまさう〳〵三諸の人ら神明のおまけ故受むとおもハゝ常ゝ慢心故もりゝけよたとへハ一毛の慢心の神明故へゝつることと大雲の如しもろ〳〵の人よ善神八法味故もて力とせるゝゆゑ三方の〳〵ゝ〳〵き物の供物故このまゝゝとなり又大出精大神のまさう〳〵三吾ゝ神明法の中六日天子まさ八大日遍照なり垂跡故滄海の龍神三ほらもれまして三更の衆生の胎ゝ故故のなまゝ法の人もおろ〳〵おゝをるへゝうらゝ天地万物皆我神明なる事故もるへゝしとおもる故のしこみうるみる邪見故ひるゝし慢心故するへゝさなりまさう日ゝ神道の真んハ天地至善のことをりうまうすゝゆゑゝ神事ゝ仏事も人事もこゝをよりくなるなりとりてゝるハ天神地祇となんとをりしまさハ古人外史と生まんとをりしまさハ他方の仏ゝ往生して作仏せんとをりまるま

せゝ神道の大悲仁直の真心故もさ道々の行業故ゝげみつと免百年の後つひニなき魂のゆくへきところ故ともやくよりゝ却もひ定ゝへく神ニも仏ニもこひのミいのるへきなり神儒仏三道の大略故まる三ハ孝経と天台四教儀と古事記故よりゝ不学初心の者ニ実語教童子教又古歌故もてさとせゝ神明の御化道と仏世尊ゝ擬宜誘引弾訶淘汰付業賦命の化道まさ四諦十二因縁六度の法門まさ胎金両部即事而真の秘法如実知自心の密観地水火風空識時三智五眼等の深理故開示悟入せ令たまふ顕密の二教のさとりまる本末となるの如く仏の本ハ神ニなるまる似れゝもこハ顕密の教道と神仏の垂化通ことなるの如く仏の本ハ神ニて神の本ハ仏なれゝハせんをるところその最深秘の處ハまさ〳〵一なるゝそうしまさ国の神書ニハのミいつる女男れます。そう故いとひ生て〳〵もる仏道のミなるゝも国内ニのらゝれいてまるのをさとる初ゝの大事ハこなゝ

そのもと我のうちに成れる神業神言のまゝ〳〵
ありもの由名二称のつゞきあるを是ゆゑなり
故れ　皇大御神の伊勢国にうつり坐つまり
坐ます事もその元〳〵神代にさだまることなれば
聞看む大宮所のうつりこのうちにせなまふことなり
こゝのこゝのたびかうまをすし　皇大御神の田なる物と畑つ物とを以て是
蒼生の食て活へきもとのうしはきつまり大国主大神の八
重事代主神為神之御尾前而仕奉者とのくまゝ〳〵ことうまく素戔嗚尊
の不有浮宝者未是レ佳也とのくまへることまく大吾名持命の吾等所造
之国豈謂善成之字とうたまふ〳〵ことまく少名毘古那命の常世
国にうつりまかりとなるうちに神業神言我今そくくことなるおもひあは
せ志ぬまく浮宝にのらむとのくまゝしかたり　神功皇后の大御世にうつ

のことくてハなくこゝハ外つ国人のくまのゝ〳〵のもの我にまく浮宝ニつゝみのせてうつ国
よまるゝ今れ　大御世をもうぬそのくまゝ〳〵神言ことそのらむまく今の
大御代にふさはしき国内のいまゝでよくなりをへぬところ我外つ国人のつくりいでせる天
小の器械をもて却ちなのつゝらしき迹たまふことゝなりまく齊衡三年の十二
月常陸の鹿嶋郡大洗磯前ニ〳〵きまし〳〵昔造ニ此国ヲ訖テ去テ往ニ東海ニ今為
濟カ民ノ更ニ示メ来リ帰レリと告ニのりし二柱の神の国造のくまゝ神業なるべしと
却もひ志ぬひもるかゆゑなりまつるいまなりて国ハ造神の生成作堅すてひくゝるゝ人
草我幸いへめでまつるハ造国なるかゆゑニ諸神のはんくまのみそひそまきにハのみ知慧
宝珠の如く神業の不思議として天造の産物国内よりいくらとふのきりなき
ものを出なりいつるゆゑなりまく神の恩徳のたゝへハいのちのり人力我つくりてもるひ
なをことなりの我国なりた。人作我もそらとをる外国とことなるとなをるべし

いと子どもたいはさな女そあめつちのあくまとーまねそ
うこまれぬくえそそ考根玖ひらきまそこのみの二柱の国造の神と日本
武尊の御霊玖このてもまよまつりをもらそよろしうるべくやはらおさて志も
きパ外ッ国人のもの玖くく為よまるるくてまするハともあく神代ととくさくさまする
ことよーえべもパ今そこ玖いくきらひくはそろをさくべくさことと
よつらぷこいもとより諸神ぷちのほ仏まて外ッ国人の世利玖得むとそく方里
の海路玖とうまるくる玖世ニもあハれとをまーを玖よまさくぷさ
とーて号。神国天造の産物玖もくその乃情世欲のんなよろ
こぷ〜免きのーとくもの外ッ国人らぷいまぷくまさとの天ッ神の世ニも
めぷくさく道つること玖きらひでたぷ世利のを玖らひのく邪欲のん玖
おとう夜ニ日ニつくのを玖つくり百千万劫ニもえぷくさく人身玖いた

ぷら二失ひつるハ根の国よりうまちまくハ毛もの贄ものともなりめぷまく玖け二
あハれとをそなかしてぷほ国のいとうをを神業玖まてこれえをしよるの
身とんとの汚垢玖そうひきよまを免そのまぷれるところ玖神なむーニ
並してていとくぷーくいとをくなるとぷの天ッ神の大通二いぷくまん自国他国の
人草玖平けくく安らけくひこもちそけうめぷくまさえあ
世ともうをを神々のほくそうひニこそつら免されパ外ッ国人のまるくてる
さくうまをそる。ぷまこととよつらぷれぷとたぷ。はそる。ぷまパ耶蘇外道の門徒ら
国人のものひくぷ為まるくてうつまくぷのひまて志国のひまを玖る。ぷ
大邪見の教法玖いのもともくほ国よはしひろめんとまする大禍事
なりけぷーしこの大禍事二つきても神書二八十禍津日神大禍津日神まを瓜振悪
神のりることを玖志るしつまパ天主耶蘇の門徒らの世二出て人草玖まぷ。ハし

あまりて根の国へおとしやられ大禍事の出くることあるもはやく神代にそ
のきざしあらはれたることといふべしされバとくその禍事の邪気を神直毘
神大直毘神伊豆能売神の神業をもて志などの風の天の八重雲
を吹はらふが如く伊吹はらひ　皇大御神の大光明を天上天
下にあまねくてらし給ふべきなりこのこと　皇大御神の須佐之男
命を伊都(イヅノ)之男(ヲ)建踏建(タケビフミタケビ)まして待(マチ)うけたまひしが如くこの仏邪教の法国よ
りまゐらざるさきにことごとくそのわざのまへをおこなはずかし日月をならべ
あけて乾坤を照すが如くこの神仏の大光明を法国内へことごとくこのやう
しまるべきなりもしこれをゆるさせバ神民をあやまらするをおそれ
るべしまことにこの邪教と異神道とハそのたがふること水火よりもなほ
しきものなれバこれが教法をこの民草に信奉せしむる時ハ我真正

なる天神の神道ハ空なきがごとくなりはてんのことなれど　天孫まし
おそれをもはざる大おぞものども国内に狭蠅の如くつきさわぎてまさに
も吹風の如くおこりたちまちつひには法国の大事ともなるべきがゆゑに慶長元
和の　大御代よりこれ邪教を法国に弘通せしことを禁じ給ふこと
めさせたまへるまでにハたゞ外国の教法なるがゆゑに法ゆるしなしといふ
までハなくこれ法国の神道の大害になる教法ゆゑにことにそのごとく弘
通をとゞめさせたまふなれども法国人も外国人もよくおもひ志
りねかしこの邪教にてハ世の中にまことの神とするものハ耶蘇が本尊と
ふ耶和華といふ大禍ものゝ外にハさらになきものなり日本にて神
といへるハみな凡人をあがめてまつりて神とせしものにてまこと
の神にてハなしまた日本の人もまことにハアダムが天生天父がめてつくり出

せて亜當夏娃。子孫なりとして之の天主天父に敬依し奉ること耶蘇の教法の如く信奉せしとかへりこれなりと汝国人とは眼のたゝのへるなりもてもそのことを考ることハいかゝるきものなるぞ。これハ何のゆゑありてうさる邪見の教法ハ国内に弘通せしむることを許えむやうこともまつたく見つゝふしとさやうりて人草の魂なる真正なる天神の御域にいさなひたまふべき大法(オホンノリ)なることをおもはれハつゝ神国の大道の幸とたくさるとハまつく邪教なる弘通せしむることよ仏者ともせよこなるつゝらよ傍観して遊民の汚名なるとるべき　大法代にあらざるなく真

ふこともひもぬひて神佛仏の正教なる信奉する人々ハ道俗男女ともにみ神明と仏陀と聖人と敬厳父と悲母と舎兄との如くおもひうやまひおのく力にまの也綾にまつるのひとつの神道のこゝろとさることとり敬ひろくは国人にとさとして皇国の実信なる真心にもひとさせむることなるもまねとさとして真正なる天神の大道なる天下におしひろめ

千五百秋瑞穂の国に立民もおもふことなき浦安の国
とうたみよるこひよろこびまひくまのしみつゝ諸人とゝもに不可称不可説不可思議の神徳なるをもて廣大深重の国恩なる報じ奉るべきなり

けだしこゝ佛仏ともにその国土にまつるひとつのひとつの時世よまこのセてその道々なるよろづひろめてその国民なるまことの利益をとふものまてもなくちこれ枝葉と花実とをもて根柢なるつらハ生の神業なるぞのし根柢なるつらハ神道のまこと天下にのまぬくつらぬくひとつのむなるとをハまつくのひとてその枝葉

花実なる佛仏二道のまことも天下にあらはれてとこしへにさかえ
まし天地のおのづからなることとなりまさる神道者流の人々も枝葉花実の二
道さのみなるときハ其根柢たる神道の深大なることその根柢たる神道の深大なることを
改天下諸万国の人々までこなよく志りてこの皇国の神道改真心にあ
ふぎなることをしるさるも天津日の如くなるべきものぞとふことをう改よま
地もふべきなりこのことハたゞ佛士と僧徒と神道者流の人々のみにつらぬ
あの愚痴にのみて一向に念仏をもる一文不知の尼入道のともがらもすべこの
皇国にうまれいでたるものにしてこの大日本心の真心改もて現世安
穏後生極楽頓證菩提護念国家と深大の誓願改起しその為に
なもものみぞなもものみぞ仏なもものみぞ佛
と晝夜におこたりなく称念しをりて上品上生の往生改とぐ

べきなりもしよく志つらバ空也上人よまた告りし
弥陀たのむ人をむなしくなさゞるべしこの国の神といふそれぞ
とふまた歌の如く　皇大御神改もたゞ此をう八百万のは神ともに天よ
よろこび地もよろこびましつゝもろともにひるとも
なき常ゝまもり幸へたまふべきなり西行の撰集抄に我朝ハ
是神国なり仏法の仏法たる是神のちからなり王法の王法たる
擁護の神力なりといひ長明が発心集も末の世のひとら後世改
おもそれよつけても神ゝいのりまをさゞるべきとおぼえたるぞとかゝる
志つゝ君根ニまことをたてゝ露もくもらぬ日の佛影の那
さてぞ〳〵志ゝく祈もふまゝくのそらおぼつかなくもうきつらねん

ぺりぬまじとせんぜるところ天の益人らぞ天神のいともめでくさは域ニ
まるのぞるぺき神業ハいのそとよいふこハ日吉大神のほさとしニ
万行皆為往生因是慈悲質直故ニ万行皆非往生業不具慈
悲質直故於此中欲取何慈悲維綾專質直とあるぞの如
くまくくこころへく大日本心の真心ぞもらさぬぺきな
りこのこころ抑のまハ皇太子のほゆをよりてぞおもひたまふ
ぱゆゑなるこころぴ憲法のおくふこのくハまるセなりもの
この書ぞまも入ぬらぱまろのいふところのつくなくをさ
なきぞとうけつらをぞ大唐国ぞおも日本心の
真心ぞとうましてもろともよ
うくここのしれとあるひたまへぉーと

聖徳皇太子御遺誡

西方離補處
北面捧憲法
ぞの國のくをさこと我生るまもる
この大君ぬまふゆなのけり

慶應戊辰二月五日

寛永寺沙門権大僧都釋孝泉敬記

和歌追西行唐詩慕寒山
花鳥風月道即是出世間

是非序表文也

臣安萬侶言。夫混元既凝。氣象未效。無名無爲。誰知其形。然乾坤初分。參神作造化之首。陰陽斯開。二靈爲羣品之祖。所以出入幽顯。日月彰於洗目。浮沈海水。神祇呈於滌身。故太素杳冥。因本教而識孕土而產。島之時。元始綿邈。頼先聖而察生神立人之世。寔知懸鏡吐珠。而百王相續。喫劒切蛇。以萬神蕃息歟。議安河而平天下。論小濱而清國土。是以番仁岐命。初降于高千嶺。神倭天皇。經歷于秋津島。化熊出凡。天劒獲於高倉。生尾遮徑。大烏導於吉野。列儛攘賊。聞

歌伏仇。卽覺夢而敬神祇。所以稱賢后。望烟而撫黎元。於今傳聖帝。定境開邦。制于近淡海。正姓撰氏。勒于遠飛鳥。雖步驟各異。文質不同。莫不稽古以繩風猷於既頽。照今以補典教於欲絕。暨飛鳥清原大宮。御大八洲天皇御世。潛龍體元。洊雷應期。聞夢歌而想纂業。投夜水而知承基。然天時未臻。蟬蛻於南山。人事共洽。虎步於東國。皇輿忽駕。凌渡山川。六師雷震。三軍電逝。杖矛舉威。猛士烟起。絳旗耀兵。凶徒瓦解。未移浹辰。氣沴自清。乃放牛息馬。愷悌歸於華夏。卷旌戢戈。儛詠停於都邑。歲次大梁。月踵夾鍾。清原大宮。昇卽天位。道軼軒后。德跨周王。握乾符而摠六合。得天統而包八荒。乘二氣之正。齊五行之序。設神理以奬俗。敷英風以弘國。重加智海浩瀚。潭探上古。心鏡煒煌。明覩先代。於是天皇詔之。朕聞諸家之所齎帝紀及本辭。既違正實。多加虛僞。當今之時。不改其失。未經幾年。其旨欲滅。斯乃邦家之經緯。王化之鴻基焉。故惟撰錄帝紀。討覈舊辭。削僞定實。欲流後葉。時有舍人。姓稗田名阿禮。年是廿八。爲人聰明。度目誦口。拂耳勒心。卽勅語阿禮。令誦習。帝皇日繼。及先代舊辭。然運移世異。未行其事矣。伏惟皇帝陛下。

得一光宅通三亭育御紫宸而德被馬蹄之所極坐玄扈而化照船頭之所逮日浮重暉雲散非烟連柯幷穗之瑞史不絕書列烽重譯之貢府無空月可謂下名高文命德冠天乙矣於焉惜舊辭之誤忤正先紀之謬錯以和銅四年九月十八日詔臣安萬侶撰錄稗田阿禮所誦之勅語舊辭以獻上者謹隨詔旨子細採摭然上古之時言意並朴敷文構句於字卽難已因訓述者詞不逮心全以音連者事趣更長是以今或一句之中交用音訓或一事之內全以訓錄卽辭理巨見以注明意況易解更非注亦於姓日下謂玖沙訶於名帶字謂多羅斯如此之類隨本不改但於所記者自天地開闢始以訖于小治田御世故天御中主神以下日子波限建鵜草葺不合尊以前爲上卷神倭伊波禮毘古天皇以下品陀御世以前爲中卷大雀皇帝以下小治田大宮以前爲下卷幷錄三卷謹以獻上臣安萬侶誠惶誠恐頓首頓首

和銅五年正月二十八日正五位上勳五等太朝臣安萬侶謹上

日本書紀跋

日本書紀、歷代之古史也　元正天皇養老年中一品舍人親王太朝臣安麻呂奉勅撰之吾朝撰書迄奏覽以是爲權輿者耶君臣共以莫不窮此書矣按應神天皇以還至　繼體天皇御宇異域典經多以雖來朝不解其義徒經三百有餘歲矣　推古天皇御宇聖德太子察三才之源達三國之起故始以漢字附神代之文字傍於干爰吾邦人浸得識量典經之旨非至聖誰敢成此緯哉蓋神道者爲萬法之根柢儒教者爲枝葉佛教者爲華實彼三教者皆是神道之末葉也雅以枝葉顯其本原然則異曲同工者歟頃學儒佛者夥而知神書者鮮矣物有本末事有終始何棄本取末焉於神國爭疏神書乎萬機之政尚以神事爲最第一但神代事理既幽微非理不通欽惟　陛下寬惠穀智之餘後世惜其流布之不廣遂命鳩工於是始壽諸梓矣舊本頗純駁不一求數本考正之去其駁而錄其純用之國而及之天下則以成熙皞之治以紹神尊之統保瑞穗之地千五百秋將必有賴於斯焉

慶長己亥姑洗吉辰　正四位下行少納言兼侍從臣清原朝臣國賢敬識

古今倭歌集序

紀淑望朝臣

夫倭歌者託其根於心地發其華於詞林者也人之在世不能無爲思慮易遷哀樂相變感生於志詠形於言是以逸者其聲樂怨者其吟悲可以述懷可以發憤動天地感鬼神化人倫和夫婦莫宜於倭歌倭歌有六義一曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰頌若夫春鶯之囀華中秋蟬之吟樹上雖無曲折各發歌謠物皆有之自然之理也然而神世七代時質人淳情欲無分倭歌未作逮于素盞烏尊到出雲國始有三十一字之詠今反歌之作也其後雖天神

之孫海童之女莫不以倭歌通情者也爰及人代此風大興長歌短歌旋頭混本之類雜體非一源流漸繁譬猶拂雲之樹生自寸苗之烟浮天之波起於一滴之露至如難波津之什獻天皇富緒河之篇報太子或事關神異或興入幽玄但見上古歌多存古質之語未爲耳目之翫徒爲教誡之端古天子每良辰美景詔侍臣預宴筵者獻倭歌君臣之情由斯可見賢愚之性於是相分所以隨民之欲擇士之才也自大津皇子之初作詩賦詞人才子慕風繼塵移彼漢家之文化我日域之俗民業一改倭歌漸衰然猶有

先師柿本大夫者。高振神妙之思。獨歩古今之間。有山邊赤人者。竝倭歌之仙也。其餘業倭歌者。綿綿不絶。及彼時變澆漓。人貴奢淫。浮詞雲興。艶流泉涌。其實皆落其華獨榮。至有好色之家。以此爲華鳥之使。乞食之客。以此爲活計之媒。故半爲婦人之右。難進丈夫之前。近代存古風者。纔一二人而已。然長短不同。論以可辯。華山僧正。尤得歌體。然其詞華而少實。如見圖畫好女。徒動人情。在原中將之歌。其情有餘。其詞不足。如萎華雖少彩色。而有薫香。文屋康秀。巧詠物然。其體近俗。如賈人之著鮮衣。宇治山僧喜撰。

其詞華麗而首尾淳滞。如望秋月遇曉雲。小野小町之歌。古衣通姫之流也。然艶而無氣力。如病婦之著華粉。大友黒主之歌。古猿丸太夫之姿也。頗有逸興而體甚鄙。如田夫之息花前也。此外氏姓流聞者不可勝數。其大底皆以艶爲本。不知倭歌趣者也。俗人爭事榮利。不用詠倭歌。悲哉。雖貴兼相將富饒金銭。而骨未腐於土中。名先滅於世上。適爲後世被知者。唯倭歌之人而已。何者語近人耳。義通神明也。昔平城天子詔侍臣。令撰万葉集。自爾以來時歴十代。數過百年。其後倭歌弃不被採用。雖風流如野宰相。輕

情如在納言而皆以他才聞不以斯道顯伏惟陛下
御宇于今九載仁流秋津洲之外恵茂筑波山之陰
淵變爲瀨之聲寂寂閉口砂長爲巖之頌洋洋滿耳
思繼既絶之風欲興久廢之道爰詔大内記紀友則
御書所預紀貫之前甲斐少目凡河内躬恒右衛門
府生壬生忠岑等各獻家集幷古來舊歌曰續万葉
集於是重有詔部類所奉之歌勒爲二十巻名曰古
今倭歌集臣等詞少春華之艶名竊秋夜之長況哉
進恐時俗之嘲退慙才藝之拙適遇倭歌之中興以
樂吾道之再昌嗟乎人丸既沒倭歌不在斯乎于時
延喜五年歳次乙丑四月十八日臣貫之等謹序

やまと歌は人のこゝろを種として万のこと
の葉とぞなれりける世の中にある人ことわざ
しげきものなれば心におもふことを見るもの
きくものにつけていひいだせるなりはな
鶯かはづの声をきけば生とし
とけるものいづれか歌をよまざりける力をも
いれずして天地をうごかし目に見えぬ鬼神
をもあはれと思はせ男女の仲をもやはらげ
たけきもののふの心をもなぐさむるは歌

て女郎花のひと時をも歌まで
そそぐをもめぐるうつりもの
もちるまでの夕暮の木ぬれ
のこりなくてこそ秋のうれ
おうるおきさまあるまで
のこのうるほる雫と消
ぬ露ひのあるを我
ろきあるをそきのこ
まるまでひ世
るとなくあるを松
のかをとみ秋
暁乃

まぎの羽うきをこの
きみ一人ある
世のほ一おもふ
のみ燈もうちみ
くるおりときく人を
ものもめる
るもまで枕本り人
なりるて山都
ありりるこのやう
この人まおきて

人も多く行の世こよきこと沢山乃
よきこと多くありなんこと
ほうへのことも
人とぼうよりて
あまとこれのれて
こころとひよりあるを
ほそつもこらのきんまそや
ほきやうまでそのほうへ
きせそのきこと
ち俊西通昭夏歌の

まおそろかつゝ歌のんよはゞらおも（ど枕ノ
雲ゝ井立ゝ名所のおきつ ゝ毎ゝくらゞ
世ゝよおゝ（ゞ くゝまゝ ゝこゝゝのゝよ
あつるまゝおゝむゝろつこゝ人麻呂な
くゝゝのゝにゝゝゝ歌のこゝゝゝゝるこの
ゝゝとゝゝゝゝ事ゝゝゝゝゝゝのな
しゞゆきゝゝよゝゝゝ柿のゝゝ
ゞゞ松の葉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝく
のゝつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
古今和歌集のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
梅殿のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ